

■ 経済経営研究科の入学者受入れの方針（Admission Policy; AP）・入学者選抜方法指針

「理念」、「教育上の目的」、「教育の目標」及び「学位授与の方針」を踏まえ、本研究科の入学者受入れの方針を以下のとおり定める。

（AP1）■求める学生像

博士前期課程 経済学専攻

●研究者養成コース

- （1）経済学に関して、大学卒業レベルの専門的学力を有する人
- （2）現実の経済問題、経済政策等に関して強い関心と問題意識を有する人
- （3）専門的な研究者になるという強い意欲と情熱を有する人

●高度職業人養成コース

- （4）大学卒業までに修得しておくべき十分な基礎的学力を有する人
- （5）問題を発見し、その解決手段を企画立案することに興味を持つ人
- （6）チームで協力して学修することに興味を持つ人

博士前期課程 経営学専攻

●研究者養成コース

- （7）経営学に関して、大学卒業レベルの専門的学力を有する人
- （8）企業が直面する現実の課題に関して強い関心と問題意識を有する人
- （9）専門的な研究者になるという強い意欲と情熱を有する人

●高度職業人養成コース

- （10）大学卒業までに修得しておくべき十分な基礎的学力を有する人
- （11）問題を発見し、その解決手段を企画立案することに興味を持つ人
- （12）チームで協力して学修することに興味を持つ人

博士後期課程 経済学専攻、経営学専攻（共通）

- （13）専攻分野に関して、修士課程修了レベルの専門的学力を有する人
- （14）専攻分野に関する専門的知識に基づき、独創性のある研究を持続的に行って、専攻する分野の学問的発展に寄与する意欲と適性を有する人
- （15）英語での研究論文執筆や学会発表を行うに足る語学力及び専攻分野に関する専門的知識に基づく分析能力・問題解決能力を有する人
- （16）研究が行き詰ったときに打開の道を探り、博士論文を完成させるだけの忍耐力を持った人

（AP2）【入学者の選考方針】

経済経営研究科では、以下の視点から、本研究科の「求める学生像」を考慮しつつ入学者の選抜を実施する。

（1）【多様性の確保】

社会人、外国人等の多様な学生の入学を促すため、入学者選抜方法を工夫する。

（2）【公平性の確保】

すべての入学者の選考において、公平性を損なうことがないように、試験結果を客観的基準に基づいて判定することにより、入学者を選抜する。

(3)【基礎的学力の確認】

すべての入学者の選考において、本研究科に入学するにふさわしい基礎的学力が十分に備わっていることを確認の上、入学者を選抜する。

(A P 3)【入学までに修得しておくべき教科・科目等】

博士前期課程 経済学専攻

- 求める学生像（1）の「専門的学力」について
 - ・学部で学修する中級以上のミクロ経済学、マクロ経済学を修得していること。
 - ・基礎解析、統計学の基礎、計量経済学の基礎を修得していればさらに望ましい。
- 求める学生像（4）の「基礎的学力」について
 - ・学部で学修する基礎レベルのミクロ経済学、マクロ経済学を修得していること。
 - ・基礎解析、統計学の基礎を修得していればさらに望ましい。

博士前期課程 経営学専攻

- 求める学生像（7）の「専門的学力」について
 - ・学部で学修する戦略、組織、財務、会計の各分野に関して中級レベル以上の学力を有すること。
 - ・統計学の基礎を修得していればさらに望ましい。
- 求める学生像（10）の「基礎的学力」について
 - ・学部で学修する戦略、組織、財務、会計の各分野に関して基礎レベルの学力を有すること。
 - ・統計学の基礎を修得していればさらに望ましい。

博士後期課程 経済学専攻

- 求める学生像（13）の「専門的学力」について
 - ・修士課程修了レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の上級理論を修得していること。
 - ・経済分析に活用することができるレベルで統計学及び計量経済学を修得していること。
 - ・現実の経済問題の本質を理解し、他人に簡明に説明することができること。

博士後期課程 経営学専攻

- 求める学生像（13）の「専門的学力」について
 - ・修士課程修了レベルの経営学（会計学を含む。）を修得していること。
 - ・現実の経営問題の本質を理解し、他人に簡明に説明することができること。